

徳山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	住宅計画学
科目基礎情報					
科目番号	0018		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	環境建設工学専攻		対象学年	専1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	建築計画教科書研究会編著「建築計画教科書」(彰国社)				
担当教員	目山 直樹				
到達目標					
住まいとまちの構成原理、建築計画の方法論、計画と生産・維持管理に関する知識を修得すること、著名建築家の作品構成原理を理解し、建築設計に応用する技術を身につけることを目標とする。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
定期試験		80点以上	70点以上	60点未満	
レポート課題1 世界の住宅建築		世界の気候・風土・文化等に根差した住宅建築から課題を設定し、構成原理や技法をレポートできている。住宅設計・住宅計画への応用的視点が明快である。	世界の気候・風土・文化等に根差した住宅建築から課題を設定し、構成原理や技法をレポートできている。住宅設計・住宅計画へ展開する基礎的技術を理解している。	課題設定が不十分で、構成原理や技法について言及できていない。	
レポート課題2 建築家の住宅作品		建築家の作品から課題を設定し、構成原理や技法をレポートできている。住宅設計・住宅計画への応用的視点が明快である。	建築家の作品から課題を設定し、構成原理や技法をレポートする。住宅設計・住宅計画へ展開する基礎的技術を理解している。	課題設定が不十分で、構成原理や技法について言及できていない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	本科で履修した建築計画の知識をもとに、計画各論的な位置付けとしての住宅ではなく、住まいを中心とするまちづくりを意図した住宅計画について学ぶ。具体的には、建築と生活および建築と生産の関係から住まいとまちの構成原理を学習する。さらに、計画のための調査研究の手法や、既往の建築計画学の成果である寸法計画、規模計画、地域計画などの原則を理解した上で、それを応用した具体的な建築作品について考察をする。また、設計や生産計画、維持管理計画に関する新たな知見についても学ぶことで将来の実務に役立つ知識を修得する。				
授業の進め方・方法	【学修の進め方】 講義形式で授業を行う。レポート演習課題を発表形式で2回行う。学習シートは毎回の授業の理解した内容を確認するために使用する。				
注意点	【テキスト】 建築計画教科書研究会編著「建築計画教科書」(彰国社) 【参考資料】 住環境の計画 1～5巻 (彰国社) 評価方法 試験 50% レポート課題 50% レポート等の提出物が未提出の場合は、課題の評価点を与えない。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	建築と生活—住まいからまちへ	建築のとらえ方と生活のとらえ方について理解する。レポート課題1について指定する。	
		2週	建築と生産—住まい・まちをつくる	住まい・まちをつくるしくみを理解する	
		3週	建築の計画—住まい・まちの構成原理	住まい・まちの構成原理を理解する。	
		4週	計画のための調査	建築に関する調査の種類と進め方を学ぶ。建築計画学研究に関するレポート演習課題を行う。	
		5週	寸法の計画	人間の寸法と設計の方法、知覚による空間、人間集合の空間の寸法計画を理解する。	
		6週	規模の計画	利用の規模、利用変動、規模計画の方法を把握する。	
		7週	形の計画	巨匠と呼ばれる建築家の住宅空間のデザインについて学ぶ。建築家の作品に関するレポート演習課題を行う。	
		8週	室内環境の計画	建築計画原論に基づく住宅の室内環境の計画方法を学ぶ。	
	4thQ	9週	住宅の品質の確保	住宅性能表示制度について学習する。	
		10週	集合の計画	住居を集合させる手法を理解する。	
		11週	地域の計画	地域計画における住宅計画と、景観づくりについて学ぶ。	
		12週	計画と管理	公共住宅の計画と管理について海外と我が国の相違点を把握する。	
		13週	住み手参加による集合住宅デザイン	コーポラティブ住宅の実例を学習する。	
		14週	長期優良住宅の計画	長期優良住宅の考え方とその促進について学習する	
		15週	演習：レポート課題2	技術内容を知らない第三者にわかりやすくプレゼンできる。	
		16週	まとめ	レポートの講評を行う。	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	自然科学	ライフサイエンス/アースサイエンス	生態系の構成要素(生産者、消費者、分解者、非生物的環境)とその関係について説明できる。	4	
			生態ピラミッドについて説明できる。	4	
			生態系における炭素の循環とエネルギーの流れについて説明できる。	4	
			熱帯林の減少と生物多様性の喪失について説明できる。	4	

				有害物質の生物濃縮について説明できる。	4		
				地球温暖化の問題点、原因と対策について説明できる。	4		
専門的能力	分野別の専門工学	建設系分野	環境	環境と人の健康との関わりを説明できる。	4		
				過去に生じた公害の歴史とその内容(環境要因と疾病の関係)について、説明できる。	4		
				水の物性、水の循環を説明できる。	4		
				水質指標を説明できる。	4		
				水質汚濁の現状を説明できる。	4		
				水質汚濁の防止対策・水質管理計画(施策、法規等)を説明できる。	4		
				騒音の発生源と現状について、説明できる。	4		
				廃棄物の発生源と現状について、説明できる。	4		
				廃棄物の収集・処理・処分について、説明できる。	4		
				廃棄物の減量化・再資源化について、説明できる。	4		
				廃棄物対策(施策、法規等)を説明できる。	4		
				環境影響評価の目的を説明できる。	4		
		環境影響指標を説明できる。	4				
		生物多様性の現状と危機について、説明できる。	4				
		生態系の保全手法を説明できる。	4				
		生態系や生物多様性を守るための施策を説明できる。	4				
		土壌汚染の現状を説明できる。	4				
				計画	風景、景観と景観要素について、説明できる。	4	
					都市の防災構造化を説明できる。	4	
			建築系分野	環境・設備	風土と建築について説明できる。	4	
					気候、気象について説明できる。	4	
					気温、温度、湿度および気温と湿度の形成について説明できる。	4	
					雨、雪による温度、湿度の関係について説明できる。	4	
					ヒートアイランドの現象について説明できる。	4	
	大気汚染の歴史と現象について説明できる。	4					
		計画・歴史		現代社会における都市計画の課題の位置づけについて説明できる。	4		
				市街地形成と都市交通のあり方について説明できる。	4		
				方法・制度の変遷について説明できる。	4		
				景観形成・風景計画、用途・形態規制の仕組みについて説明できる。	4		
				建築協定・緑化協定などの住民参加・協働のまちづくりの体制について説明できる。	4		

評価割合					
	試験成績	課題1	課題2	プレゼン	合計
総合評価割合	50	20	20	10	100
試験	50	0	0	0	50
レポート課題	0	20	20	10	50